

原山海「それぞれの鞄の中、確認するのにはあり？とは言ってもサラっと見るだけだけど、別の本が入ってるかもしれないし。」

石山晴夏「うーん。あんまりごそごそみられるのは嫌だけど、蓋開けて覗くくらいなら…。」

中谷夢「別にいいけど、やましいことないし。」

話しているだけでは分からぬ。そう思っての発言だったのだろう。女子が許可したところでお互いの荷物を確認してみることになる。

浜田清太「一応、ある程度は配慮した方がいいと思うかな強制はしないけど、女子の荷物は女子が見るとかね。あんまり気持ちのいい行為じゃないし、これからも軽音部を続けていくなら、遺恨を残したくないし。」

山瀬浩樹「そもそも、誰がやったのか犯人が自分で言えばこんなことしなくともいいんじゃないかと思うんだけど。」

石山晴夏「まあまあ、この中に犯人いないかもしないしもう少し話し合ってみよう。みんなと仲間割れはしたくないかな。」

仲間割れをしたくないという石山の言葉にみんなはうなづいた。

一体に軽音部はどうなってしまうのか？それについて最終的な結論を出すために再び話し合うことにした。